



中土佐町教育研究所

# 研究所だより



桜の開花が待ち遠しい季節となりました。皆様方におかれましては年度末の慌ただしい時期となり、ご多忙な毎日をお過ごしのことと存じます。

さて、中土佐町教育研究所は平成24年に発足し、2年目に中土佐検定の試行、3年目に本格実施以来13年間「脳科学に基づく基礎学力の定着」を柱に据え中土佐検定事業に取り組んでまいりました。令和6年度からはこどもセンターに移転し、適応指導教室との連携と児童生徒支援の研究をもう一つの柱に据えて取り組みを行ってきました。

そして、令和8年度からは、教育研究所は機構改革により、適応指導教室とともに支援業務を行うこととなります。他市町村の支援センター的な組織となります。中土佐検定は今まで通り行っていきます。こどもセンターに設置されているメリットを生かし、より幅広い視点から、基礎学力の定着や不登校あるいは支援を必要とする児童生徒に寄り添った取組を求められることとなります。他市町村の研究所をはじめとする関係機関との連携もより深めていきたいと思っています。どうかご協力をよろしくお願いいたします。

この一年間、各学校の検定担当者の先生をはじめ、教職員の皆様には、中土佐検定への取組及び実施へのご協力をいただき、心から感謝とお礼を申し上げます。次年度からの新たな教育研究所業務へのご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

中土佐町教育研究所 所長 古谷智史

## 令和7年度 研究所の主な取組

- ① 基礎学力定着の取組「中土佐検定の実施」  
(小学校算数3回、中学校数学・英語各3回、中学校漢字2回)
- ② 中土佐検定の結果分析と間違いランキングの作成
- ③ 中土佐検定テキスト修正(小学校【算数】中学校【数学・英語・漢字】)他「ことばのきまり」
- ④ 中土佐検定の取組支援(各学校の要望に対する支援)
- ⑤ 児童生徒支援の取組「エンカウンターの実施」
- ⑥ 各種学力調査の結果分析と中土佐検定の関連調査
- ⑦ 各種会合の開催【研究所運営委員会(2回)、検定担当者会(小中合同で2回)、教科担当者会(英2回、数1回)、教育委員会との打合せ会(8回)】
- ⑧ 各校の校内研修会・研究授業への参加
- ⑨ 情報発信(町広報紙掲載、研究所だより発行(4回)、ホームページ更新)
- ⑩ 研究所協議会への参加(高知県教育研究所連絡協議会、教育研究所中西部地区連絡協議会研修会)
- ⑪ 他市町村への視察(四万十町教育研究所)
- ⑫ 適応指導教室、こどもセンター、あったかふれあいセンター「まんまる」との連携、協力

## 第3回 中土佐検定結果

令和7年度第3回の中土佐検定は、1月に中学校「漢字」の検定を、2月に小学校「算数」、中学校「数学」「英語」の検定を実施しました。結果は次の通りです。

令和7年度 3学期 中土佐検定結果 (合格率は最終結果)

### 小学校 算数 (第3回)

学年	1年生 (16級)	2年生 (13級)	3年生 (10級)	4年生 (7級)	5年生 (4級)	6年生 (1級)	町全体
受検者数	29	27	26	35	31	31	179
平均点	97.1	95.7	95.1	85.1	82.6	88.6	90.3
合格率(%)	100%	100%	100%	97%	97%	100%	99%

### 中学校 数学 (第3回)

学年	1年生 (7級)	2年生 (4級)	3年生 (1級)	町全体
受検者数	21	30	38	89
平均点	63.8	87.4	83.5	80.1
合格率(%)	76%	80%	84%	81%

検定受検当日の様子



### 中学校 英語 (第3回)

学年	1年生 (7級)	2年生 (4級)	3年生 (1級)	町全体
受検者数	21	30	39	90
平均点	71.9	83.2	88.5	82.8
合格率(%)	67%	80%	87%	80%



検定前に教え合う様子



### 中学校 漢字 (第2回)

学年	1年生 (5級)	2年生 (3級)	3年生 (1級)	町全体
受検者数	21	30	39	90
平均点	75.5	78.4	87.1	81.5
合格率(%)	86%	90%	95%	91%

## 第2回 中土佐検定担当者会

令和7年度第2回の中土佐検定担当者会を開催し、年間の検定結果や各校の取組の成果や課題を共有しました。たくさんのご意見をありがとうございました。一部抜粋ですが掲載します。

研究所として改善できる内容についてはすぐに対応し、また、改訂等を待たなければならない内容もありますので、改訂時に検討したいと考えています。

[小中検定テキストについて]

- ・ 答えが後ろにあるため、早く終わらそうとする児童がいる。
- ・ 算数科の基礎学力の定着には効果的だが、主体的に学ぶ学習には至っていない。教師がゆとりを持って、授業実践をするためにも多方面からの検討が必要。
- ・ プレテストは計算タイム(10分間)で取り組むには問題数が多く20分間くらいかかるので、ショートバ



- ージョンもあるとありがたい。
- ・図形問題の取り扱いを検討してください。
- ・3年生の検定用紙の中にも4年生以上のように解答欄があるといいのではないのでしょうか。
- ・タブレットを見ながら、別のノートに書いていくのは低学年には難しいと感じる。
- ・練習問題の答えは、同じページではなく別のページにあったほうがありがたい。
- ・漢字テキスト、漢字検定の内容を教科書の該当学年に応じた問題にしてほしい。
- ・内容が精選されていて、練習だけでなく予習・復習にも活用できるものになっています。
- ・生徒の多様な実態を考えると、解答等の漢字にルビがあったらどうかと思う箇所があります。

### 小学校 成果

- ・問題に繰り返し取り組み、習熟を重ねることが、計算領域の基礎的な力の育成につながっている。
- ・繰り返し取り組んだことで、できなかった問題ができるようになったり、友だち同士で助け合う姿も見られた。
- ・やればやるほど力がつくので何度も問題をしたことは良かった。
- ・復習や家庭学習等に使う場合もあり、基礎学力の定着につながっている。
- ・データ（タブレット）を使って自学に取り組むことができています。
- ・以前に学習した内容の復習としても定着に役立てることができている。
- ・宿題プリントにしたり、プレテストを何度か実施することで理解度が深まった。
- ・中学校へのつながりを意識した指導の時間を取ることで、児童もイメージを持てたのではないか。
- ・帯タイムや放課後の時間等を活用している。
- ・モジュールの時間などで冊子に取り組んだ。基礎学力の定着には効果があった。

### 小学校 課題

- ・冊子の採点は、自己採点を中心となってしまい、どこに躓いているか見極めることが難しかった。
- ・時間が限られているため、取組の時間を授業の時間でつくるのが大変だった。
- ・計算はできるが、文章問題になると問題文の読み取りの弱さが見られた。
- ・教科書の進度と検定テキストが合わないところがあるので問題の見直しをお願いしたい。
- ・問題数のボリュームがあって、取り組むのに苦労した。取り組み方と時間配分を工夫したい。
- ・検定までの練習や準備等を学校行事等で計画的に十分できないことがあった。

### 中学校 成果

- ・本試2週間前から帯タイムを活用して集中的に学習した。
- ・プレテストを実施した。
- ・プレテスト、本試、再試、再々試の度に生徒名簿一覧を回覧し、教員の取り組み意識を啓発した。
- ・試験の結果に得点だけでなく、平均点と合格率も記載し、教員の取り組み意識を啓発した。
- ・各学級で再試、再々試に向けて、学年団教員で個別支援を行ったうえで試験に臨ませた。
- ・検定前にプレテストを2回行い本試験に臨むことで、生徒たちは個々の弱点や課題を捉え、その克服・解決に向けてその後の学習に取り組んでいる。
- ・自己の取組に見通しを持つことで、より意欲的に取り組むことにつながっている。
- ・検定の内容が定期テストに向けての復習に活用できる点で、多様な問題を練習することができた。
- ・取組期間をその都度設定しているが、結果がステップアップしていくことを実感できることで、より集中して取り組む姿が見られている。

### 中学校 課題

- ・再試、再々試では、答えをそのまま覚えて臨んだ生徒が多く、合格という達成感は得られたが、検定の本来的な主旨である確かな学力には結びついていない。
- ・今年度から教科書が変更になったため、英語と国語では検定の内容に授業では学習していない範囲が出題されたため、検定に向けた学習を授業で、別枠でする必要があった。
- ・支援が必要な生徒に対して個別の指導も並行して行っているが、家庭学習での活用という点では十分でなかった。呼びかけ、励ましをすることに加え、より効果的な活用方法を検討する。
- ・間違いランキングをもっと有効に活用できるよう検討していく。

## 第2回 研究所運営協議会

本年度第2回教育研究所運営委員会を3月2日に開催しました。本年度の研究所の取組の総括や年間通した中土佐検定の結果等を確認し、委員の皆様より研究所運営についてのご意見をいただきました。一部抜粋ですが下記のような意見がありましたので報告します。貴重なご意見をありがとうございました。

- 学校だけではできない分析、資料の提示を研究所が担うことができることに大きな価値がある。
- 学校も含めて、データが出た後の弱点を補う取組が大切になると思う。学校だけでなく、研究所も両方が共にやるのが大切。
- 検定を継続している児童生徒の経年比較は非常に興味深かった。2年生の九九や4年生の割り算や小数の足し算引き算は重要であり、そこでのつまづきをどう解消していくかがポイントとなる。
- 強みを弱みにつなげるため、個人、集団、学校で、どう分析してどう改善していくかを学校と一緒に取り組んでいくとよりいいものになると思う。
- たくさんのデータを見て「なるほどな」と思った。それらを活用して目的達成を目指していくだろうと思う。そのためには繰り返しやること、特に家庭学習が大切だと思う。
- 家庭で学習する時間が少ないのが気になる。家庭学習の習慣は中学校卒業後も大事。家庭学習を当たり前にすることを目指したい。
- 町外から赴任してきた教員が、中土佐町の生徒の基礎学力がついているのは中土佐検定のおかげだと言っていた。
- 子どもたちは検定前は表彰してもらいたくて必死になっているが、それ以外だとまだまだ家庭学習の習慣は身につけていないので、その一つとして中土佐検定を活用したい。
- 活用例を示されるだけでなく、こちらからも模索して子どもたちへ示すことが大切ではないか。
- 検定の結果の点数を子どもから報告されることがあった。合格とはならなくても点数の上がり具合も認めて取り組んでいる。
- 全国や県の学力調査の経年データは見るが、個人の経年比較のデータは非常に参考になった。
- 保護者から検定合格の連絡を聞いたことがあった。検定合格が自信につながっている。

### あいあいルームのとびら

新しい体制になり1年が経とうとしています。中土佐町適応指導教室(『あいあいルーム』)は今年度より教育委員会の所属となり、新しい支援員も迎えてスタートしました。今年度は同じ部屋に、適応指導教室支援員3名を中心に、スクール・ソーシャル・ワーカー1名、育成センター指導員1名、教育研究所3名の計8名が情報交換を行いながら取組を行ってきました。また、スクール・カウンセラーの来室に合わせて情報共有も行うことができました。

今年度は、2月末現在で210日開室し、小学生・中学生・高校生が来室してくれました。一人一人が自分と向き合い、その支援を支援員等が行いながら、「社会的自立」「学校復帰」を目標に努力を積み重ねてくれています。

あいあいルームでは、自分のやりたいことを形にすることを大切に、その日の計画を立てて過ごしています。「自己効力感」の高揚を目的として、できるようになったことに褒め言葉を投げかけたり、家庭・学校以外の「居場所」としてのあいあいルームとなるように、ピアノやギター、バドミントンなどの運動、モルックなどのレクリエーション活動、コマ回しやヨーヨーなどのひとり遊び、畑で野菜を栽培したり、その野菜などを使っての調理やお菓子作りなど、支援員が役割分担をして、時に他の職員を巻きこみながら、支援員・職員の得意を生かして活動することで、子どもたちの成長を見守ってきました。また、保護者の方にも大変お世話になりました。そして、中土佐町子どもセンターの各組織(子育て支援センター「はぐ」や、あったかふれあいセンター「まんまる」)の職員の方や来所されている方々との交流も子どもたちにとっては貴重な経験となりました。

1年間の取組の中で、子どもたち一人一人が自分たちの階段を確実に登っていることを感じることができました。これからも子どもたちの成長を願い、子どもたちの秘めた力を発揮できるように支援を行っていきます。最後になりましたが、1年間あいあいルームに関わっていただいたすべての方にお礼を申し上げます。

4月からはまた新しい1年が始まります。体制も変わり、活動についても少しずつ改善・変更を加えていくことも必要になります。また、来年度も皆さんからの温かいご支援をいただけるように努力していきます。

学校生活の  
不安  
学習サポート



子どもの  
居場所



こどもセンター  
Nakatosa Kodomo Center